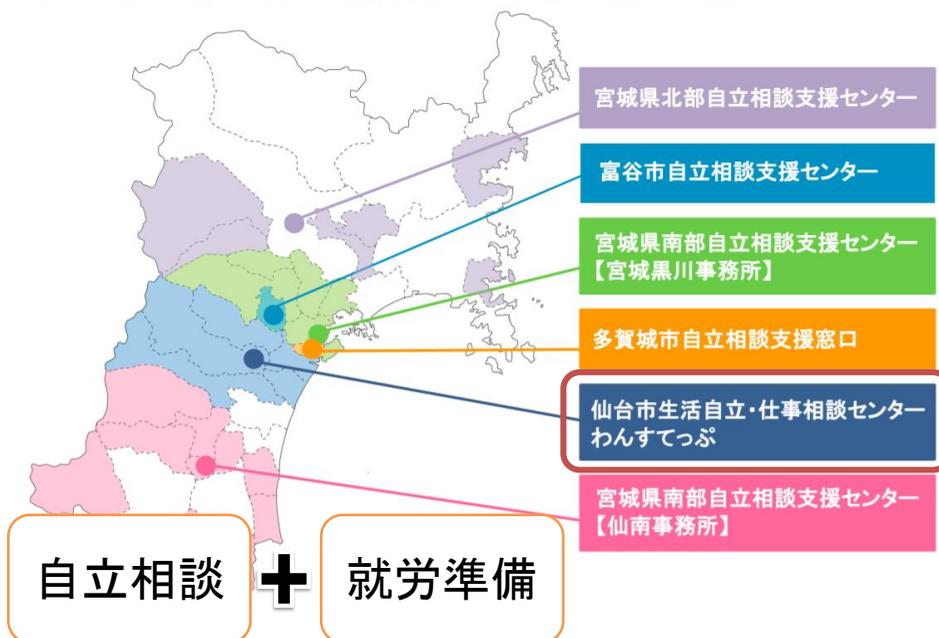


生活困窮者自立支援制度人材養成研修 テーマ別(ひきこもり状態にある者への支援)研修

一般社団法人パーソナルサポートセンター
仙台市生活自立・仕事相談センター わんすてっぷ

佐藤 圭司

- パーソナルサポートセンター生活困窮者自立相談支援実施箇所(宮城県内)



ひきこもり支援に対する自立相談の課題

- ・ コロナにより相談件数が増加
- ・ 継続的なアウトリーチが困難
- ・ マンパワー不足
- ・ 面談以外の支援ツールが確保できない

3

自立相談支援の機能強化を活用

アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化

令和2年度予算案 31.7億円

◇ 就職氷河期世代をはじめとした社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対し、「一人ひとりが抱える課題に応じた就職支援の充実や職業的自立の促進」や「生活支援の充実等によるセーフティネットの強化」を行うことにより、社会の担い手として活躍できるよう支援する。

◇ 具体的には、以下の取組を実施する。

- ・ [【相談支援に結びつけるための支援の強化】自立相談支援機関の機能強化（アウトリーチ等の充実）](#)
- ・ [【就労支援メニューの強化】都道府県による就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング等](#)

補助率:10/10

自立相談支援の機能強化の概要

- ◆ 社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方については、アウトリーチ等による積極的な情報把握により早期に支援につなぐことや、支援につながった後の集中的な支援が求められるが、自立相談支援機関では十分なアウトリーチを実施するだけの人手が確保できていない実態がある。
- ◆ このため、自立相談支援の機能強化のためのアウトリーチ等を行うための経費について、財政支援の仕組みを新たに創設する。

事業内容

ア) アウトリーチの充実

- 自立相談支援機関において、アウトリーチ支援員を配置。
- アウトリーチ支援員は、ひきこもり地域支援センターやサポステ等とプラットフォームを形成するとともに、同行相談や、信頼関係の構築といった対本人型のアウトリーチを主体に、ひきこもり状態にある方など、支援に時間のかかる方に対して、より丁寧な支援を実施する。
- 具体的には、アウトリーチの充実として、
 - ① 家族などから相談があったケースについて、自宅に伺い、本人に接触するなど、初期のつながりを確保
 - ② つながりが出来た後の信頼関係の構築、本人に同行した、関係機関への相談、就労支援といった、自立までの一貫した支援を実施

イ) 相談へのアクセスの向上

- アウトリーチ支援員による土日祝日や時間外の相談の実施等、相談へのアクセスを向上する。

※ 本事業の実施期間は令和2～4年度とする。（なお、令和元年度当初予算における前倒し実施も可能とする。）

4

アウトリーチ支援センターの活動内容

アウトリーチによる相談

- 来所が難しい場合は訪問をいたします。
- 定期的に訪問をして関係性づくりから始めます。

居場所・サロン

- 安心して過ごせる場所
- 何をしてもいいし、何もしなくてもいい。

ひきこもり予防活動

- ひきこもりにならないように。
- 通信制高校などに出張をしての就労相談や生活相談。
- 卒業後にもつながれるように。

5

居場所の様子①



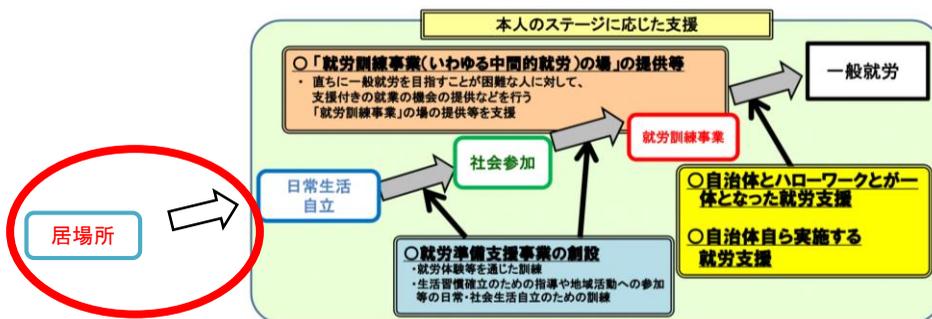
6

居場所の様子②



7

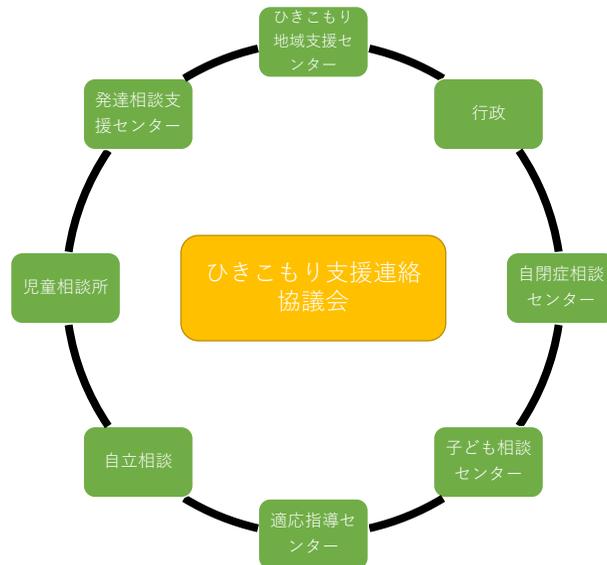
アウトリーチ支援センターの立ち位置



※厚労省資料を基に作成

8

ひきこもり支援のネットワーク



9

支援事例① Aさん 20代 男性

- ・母親からの相談。
- ・高校の途中から不登校。
- ・高校卒業後、ひきこもり状態。
- ・最近はまったく外出しなくなった。
- ・家で壁を叩くなどの行為。

10

支援内容

・初回面談の次の日から毎日、家からセンターまで送迎。

・ドライブ

・一緒にゲームで遊ぶ。

・電車の乗り方を練習。



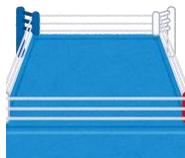
11

関わり始めて3か月での変化！

・センターの帰りにひとりで映画をみる。

・自分から話しかけてくるようになった。

・何よりも笑顔が増えた。



12

支援事例② Bさん 50代 男性

- ・近所に住む家族からの相談。
- ・2年前に母親が亡くなってからひとりで生活。
- ・母親が亡くなり、長年勤めていた会社を退職。
- ・それ以降、ひきこもり生活。

13

家族からの情報

- ・未婚
- ・数か月お風呂に入っていないと思う。
- ・2年は髪と髭を切っていない。
- ・一日中テレビを見て寝ている。
- ・食事は家族が提供している。家のことは一切していない。

14

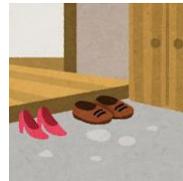
どのように関わっていくか？

- ・週に2回、曜日と時間を決めて訪問

- ・何もしないし、何も求めない。

- ・顔を合わせて少し話をするだけ。

- ・何かしたくなったらいつでも動ける準備。



少しの変化！・・・

- ・自分で玄関の鍵を開けてくれるようになった。

- ・髪を切りたい。

- ・しかし・・・

- ・そして・・・



思うこと

- ・「支援」はしない。
- ・まずは仲良くなる。
- ・焦らない。
- ・自分の時間感覚は横に置く。



ご清聴
ありがとうございました

